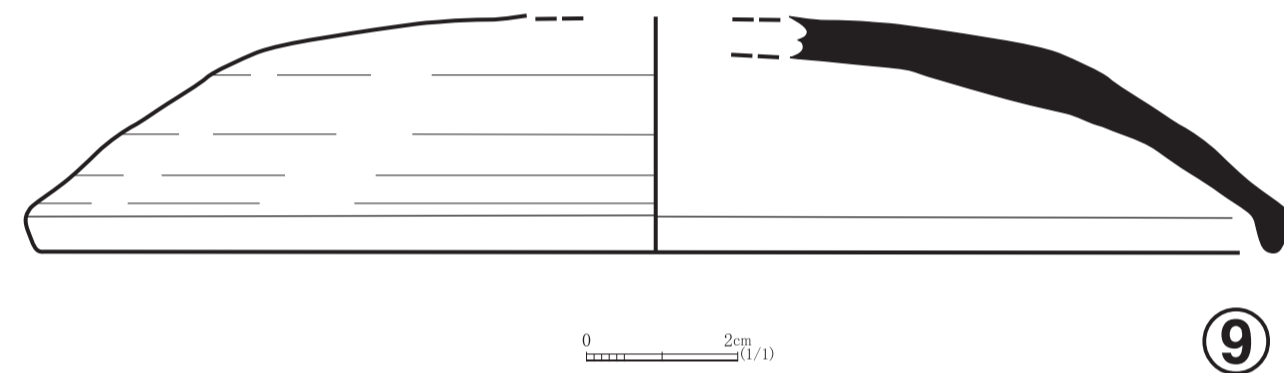
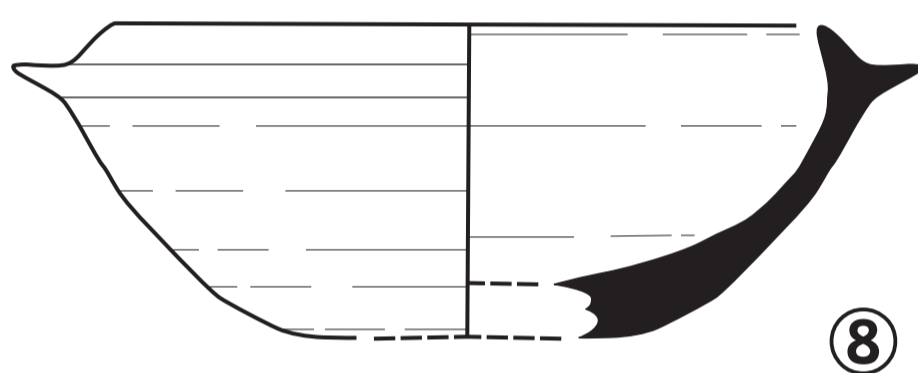
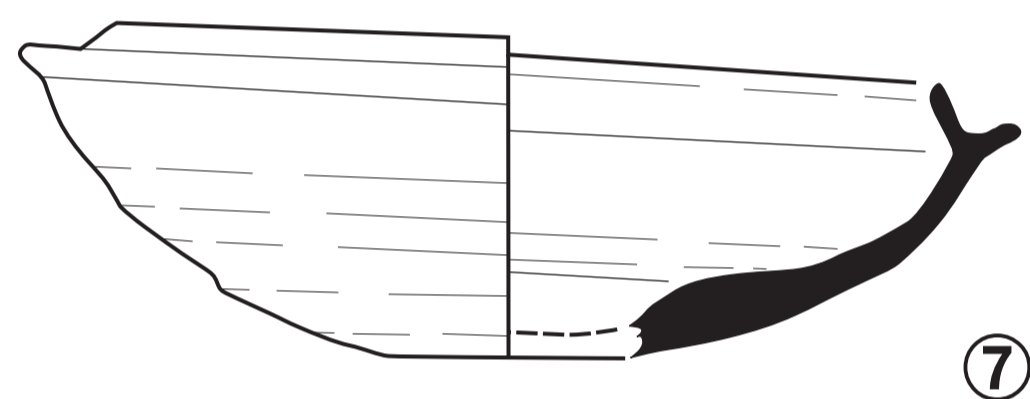


# 山口市大内御堀 謎の古墳群

## 須恵器 坏など9点



遺物写真



遺物実測図

### 資料の概要

■資料名：①須恵器 子持壺口縁部 ②須恵器 子持壺頸部 ③須恵器 子持壺小壺  
④須恵器 器台台部 ⑤須恵器 器台脚部 ⑥須恵器 器台(高坏?)脚裾部  
⑦須恵器 坏身 ⑧須恵器 坏身 ⑨須恵器 坏蓋

■所属時期：①～⑧古墳時代後期 ⑨奈良時代

■出土地：①御堀Ⅰ ②御堀Ⅱ ③不明 ④御堀ⅧⅠ ⑤不明 ⑥不明

⑦御堀ⅡⅠ ⑧不明 ⑨御堀ⅡⅡ ※数字は地域区分を示しているものと思われる

■出土年月日：①昭和25年(1950)12月10日 ②～⑧ ⑨昭和26年(1951)12月18日

これら9点の須恵器は、昭和25年から翌26年にかけて、山口大学の教職員もしくは学生が山口市大内御堀を踏査して採集したものと推定されます。場所は「御堀」としか記されていませんが、仁保川下流の北に連なる、象頭山から大内氷上にかけての丘陵地と想像されます。この地域は古くから古墳群の存在が指摘されていましたが、現在では丘陵の奥部まで宅地化が進んでおり、多くの古墳は未調査のまま破壊されたものと想像されます。

資料の中でも注目すべきは、子持壺と器台が含まれていることです。特に子持壺は、県内では3例(山口市阿東：狐塚古墳、山陽小野田市：桜の木古墳、下関市豊浦：青井1号墳)しか知られていません。この地域は、大内盆地西部を束ねる首長クラス人物の奥津城であった可能性があります。研究を進めるためには、これらの資料が採取された正確な場所を知る必要があります。

半世紀以上が経過しましたが、昭和25年から26年にかけて御堀の踏査に加わった方、または踏査を見かけた記憶がある方は、情報をご提供下さい！